

【開催レポート】2019 年度第三回 産地見学・商談交流会（北海道開催）

◎開催日時 : 2019 年 9 月 24 日（火）～25 日（水）

◎視察詳細

【第 1 日目 9 月 24（火）】

視察① （株）カーム角山視察《江別市》

砂カーム角山は 480 頭フリーストール牛舎にアジア初の 8 台のロボット搾乳システムを導入したメガロボットファームで 2014 年 1 月に農業法人として設立。2018 年度の生乳出荷量は 5,536 t。

食品の安全性・健全性・品質を確保する為の科学的管理手法である農場 HACCP 認証と、食品安全・環境保全・労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理手法である JGAP 認証を日本の酪農として初めて受ける。バイオガスプラント発電も行っており、環境にやさしい循環型農業を推進している。

同施設では、搾乳の都度、乳成分の検査により牛の健康管理を行うという日本初のシステムを導入。ロボット化を、人件費の削減だけでなく衛生管理の向上に繋げている（ロボット化により、月 5 日間の休日を確保できるようにもなった）。また糞尿を自動で集めて 40 日間 40℃で発酵させ、ガスを生み出すことで発電を行っている（ガスを取り終えた糞尿は肥料として再利用）。

農場 HACCP・商品 HACCP どちらも取得しているのは国内で 5 件のみとなっており、衛生面の管理に対する意識が非常に高い。しかしながら、その取り組みが商品価値に反映し切れていないのが現状。今後は、食品の衛生管理に関して消費者にも興味を持っていただくことが重要になってくる。

⇒（株）カーム角山視察の 3 つのコンセプト

- ・ロボット搾乳システムの導入により、生産性向上と人手不足対策を行う
- ・牛の健康管理の徹底により、品質の良い牛乳の供給を行う
- ・糞尿からメタンガスの発電・売電を行い、産業廃棄物減少と収益向上に繋げる



視察② （有）大塚ファーム《新篠津村》

大塚ファームは農薬や化学肥料にたよらない有機農業栽培を行い、地下 152 メートルからくみ上げた天然地下水や防虫ネット・光防虫機・ハーブなどのバンカープランツ、混植栽培によるコンパニオンプランツなどを活用している。これまで 60 種類以上の作物を生産し、消費者へ直接販売してきた経験を生かし、大手外食企業をはじめ有機野菜の販路拡大に意欲的に取り組んでいる。18 ヘクタールという広大な土地で、薬物を使用しない野菜



作りに励んでいる。風向きを考慮した防虫ネットの設置や、松ヤニ等による害虫対策を行っている。オーガニック認証マーク付きの野菜の供給は、スーパーマーケットや外食からも高い評価を得ている。農業体験の受け入れや消費者交流にも積極的で、2014 年には、意欲的に技術改革や地域発展に取り組む農業者に贈られる「日本農業賞」を受賞した。

視察③ J A岩見沢《岩見沢市》

石狩平野の中央部にあたるJ Aいわみざわ地域は、石狩川沿いの東に位置する広大な平坦地にあり、空知の豊穡な穀倉地帯の一翼を担っている。同地域は泥炭地を客土による土地改良を進めたことで米の大産地となり、道内でも有数の豪雪地帯でありながら温暖で 農業に適した日本海型気象条件を活かし、日本の食料基地として重要な役割を果たしている。

近年ではタマネギやハクサイ・カボチャ・キュウリなどの野菜、花き・果樹など、多種多様な農作物を生産している。

また米のタンパク値を計測・管理し、また色選別を行うことで良質米を提供している。



北海道産食材等のプレゼンテーション／各種試食検討会

外食・中食産業と生産者等との商談交流会（札幌グランドホテル）

道央地区の有力な水産・畜産・農産加工事業者をはじめとする生産者・団体が一堂に会し、外食・中食産業向けの食品・食材を提案。特に、各社の夏・秋に向けたメニュー開発のヒントとなる様々な農畜産物や加工品に関するプレゼンテーションを行った。

大根・トマト・ジャガイモなどの野菜類をはじめ、鶏卵・豚肉・有機牛乳など幅広い食材を生産・販売する13企業・団体が出展を行い、参加者との商談交流会を行った。1卓を8分ずつ回る形でローテーションし、参加者と全出展社が一度は交流が出来る形式で実施した。商談会終了後には、北海道食材を活用した懇親会兼試食会も実施され、プレゼンされた商品を活用した料理提供が行われた。



商談会挨拶
(株)柿安本店 赤塚社長



懇親会挨拶
北海道副知事 土屋様



懇親会挨拶
(株)イーストン 大山代表



懇親会感想
(株)フレッシュ食品 加瀬様



【第2日目 9月25日（水）】

視察④ （有）サンファーム《留寿都村》

留寿都村は「蝦夷富士」とも呼ばれる羊蹄山の麓に位置し、標高 400 メートルと夏でも冷涼なこの地にはミネラル豊かな湧き水が溢れ出ている。1997 年に設立し、2002 年に農業生産法人化した（有）サンファームはこの恵まれた自然環境の中、人参（向陽・紅あかり）・グリーンアスパラ・ホワイトアスパラ・大根（春のいぶき・夏つかさ旬）・じゃがいも（北あかり・男爵・とうや・レッドムーン・インカのひとみ）・ゴボウ（柳川理想）・ホウレン草・キャベツ（ハウス栽培）などの栽培に取り組んでいる。

作物本来の力を引き出すために、極力農薬を使用せずに土壌作りを行っている。また土壌の栄養分に偏りが出ないように、毎年作柄を変え（輪作）健康な作物づくりを心掛けている。



昼食 金剛園本店《苫小牧市》

今年で創業 33 年を迎え、苫小牧市を拠点に焼肉店を展開する金剛園では、熟練した職人が黒毛和牛を一頭買いし、徹底した温度管理のもとに熟成させることで旨みを引き出している。秘伝の生ダレは風味・香りを活かすために非加熱製法にこだわり、肉の味を損なわないすっきりした美味しさで、焼肉本来の風味と香りを味わうことができる。



視察⑤ （株）マルシメおぬき《伊達市》

（株）マルシメおぬきは 2010 年に設立以来、ジャガイモをはじめレタス・キャベツ・米・たまねぎ・ビート・かぼちゃ・小麦・スイートコーン・トマト・きゅうり・セロリ・大和芋・里芋・にんにく・白菜などの栽培に取り組んでいる。同社は JGAP 認証の取得を契機に近年販路を急拡大させ、大手菓子メーカーのポテトチップスや食品メーカーのカット野菜などに採用されている。

寒暖差の大きさを利用して美味しい野菜作りに励んでいる。洞爺湖の南に位置する標高 737m の活火山である有珠山の灰により良質な土壌が備わっている。また安心して食べられる野菜を届けるために土壌や作物の健康状態を診断、それに基づいた施肥設計を行い、2010 年には JGAP 認証を取得した。



視察⑥ HAL 集出荷施設《恵庭市》

HAL 流通研究センターは、貯蔵・選果・加工の機能が集約された道内でも希少な施設であり、馬鈴薯、玉葱、南瓜の集荷等を行う。CA 貯蔵から冷蔵庫まで備えているため、6～7 月までの長期貯蔵ができ、周年供給を可能にしている。今年度は他品目も含め約 200 名の生産者・団体による協力のもと、約 1 万トンの取扱量を見込んでいる。

HAL 集出荷施設では「クリーン農業」をベースとして、消費者が求める「安心・安全」に応え、また、環境負荷低減や農業経営リスクの管理を徹底するために、農産物生産に関する統一基準「HAL 認証農産物」認証制度を定め運営している。グローバルギャップも取得して、農薬や化学肥料も半減させ、また選果設備も衛生管理を徹底している。集荷した玉葱は、機械に通すことでサイズごとに自動で分けられ、その後人の手によって見た目の悪いものが抜き取られている。機械の利用により作業効率をアップさせつつ、人の手・目により商品の品質を担保されている。また同施設では集出荷施設としての機能とは別に、生産者の抱える問題に対する窓口としての運営・担い手のいない農家への求人サポート等の公的な事業も行っている。



視察⑦ 余湖農園《恵庭市》

余湖農園は完熟堆肥をたっぷりと畑にすき込み地力を上げることで、病気に負けにくく、虫にも食べられにくい野菜を作り、化学農薬や化学肥料を使わない安全で味わい深い有機・特別栽培野菜の生産に力を入れている。加工用トマトの生産やピューレにした加工品などの商品開発にも取り組んでいるほか、平成 24 年には JGAP 認証を取得し、食の安全と持続的な農業経営の両立を目指している。

出来るかぎり化学農薬や化学肥料を使わない安全で味わい深い野菜の生産を目指しており、またトマト等を使った商品開発にも力を入れている。「トマト鍋スープ」は 2016 年に「北のハイグレード食品+」を受賞した。



9月24日～25日 北海道産地見学商談会
バイヤー参加者名簿（敬称略・順不同）

No.	所属
日本フードサービス協会	
1	(株) 柿安本店
7	(株) 柿安本店
2	(株) イーストン
3	(株) イーストン
4	(株) イーストン
5	SRSホールディングス (株)
6	(株) 大戸屋ホールディングス
8	(株) ケイコーポレーション
9	(株) ダイナックホールディングス
10	(株) ダイナックホールディングス
11	(株) 銚子丸
12	(株) 銚子丸
13	(株) 鮒 忠
14	(株) ミツ星レストランシステム
15	(株) ミツ星レストランシステム
16	(株) ミツ星レストランシステム
17	(株) モスフードサービス
19	(一社) 日本フードサービス協会
20	(一社) 日本フードサービス協会
日本惣菜協会	
21	寿食品(株)
22	フレッシュ食品(株)
23	(株)フルックス
24	(株)フルックス
25	(一社) 日本惣菜協会
26	(一社) 日本惣菜協会

産地見学・商談交流会（北海道） 行程予定表

【1日目】 9月24日（火）

時間			視察先	場所
9:30	-	10:30 (01:00)	バス移動 新千歳空港→江別市	9:20 新千歳空港 JAL側 貸切バス待合所集合
10:30	-	11:30 (01:00)	①ロボット搾乳施設（カーム角山）	江別市角山491
11:30	-	12:00 (00:30)	バス移動 江別市→新篠津村	
12:00	-	13:15 (01:15)	②昼食（しんしのつ温泉 たっぷの湯）	新篠津村第45線北2
13:15	-	13:30 (00:15)	バス移動 新篠津村→新篠津村	
13:30	-	14:30 (01:00)	③有機野菜、加工販売（大塚ファーム）	新篠津村36-42
14:30	-	15:00 (00:30)	バス移動 新篠津村→岩見沢市	
15:00	-	16:30 (01:30)	④白菜施設、玉ねぎ施設、米施設（JA岩見沢）	岩見沢市内
16:30	-	17:30 (01:00)	バス移動 岩見沢市→札幌市	
17:30	-	19:30 (02:00)	⑤商談会（札幌グランドホテル 東館地下1F）	クリスタルホール
19:30	-	20:30 (01:00)	⑤試食会（札幌グランドホテル 本館3F）	新緑の間

【2日目】 9月25日（水）

時間			視察先	場所
7:00	-		札幌グランドホテル 出発	札幌市中央区北1条西4丁目
7:00	-	8:45 (01:45)	バス移動 札幌市→留寿都村	
8:45	-	9:15 (00:30)	①大根・じゃがいも・ゴボウ生産施設（サンファーム）	留寿都村字留寿都200-114
9:15	-	10:15 (01:00)	バス移動 留寿都村→伊達市	
10:15	-	10:45 (00:30)	②米、野菜生産施設（マルシメおぬき）	伊達市長和町693-2
10:45	-	12:15 (01:30)	バス移動 伊達市→苫小牧市	
12:15	-	13:00 (00:45)	③昼食（金剛園本店）	苫小牧市新中野町3丁目9-6
13:00	-	13:50 (00:50)	バス移動 苫小牧市→恵庭市	
13:50	-	14:30 (00:40)	④馬鈴薯、玉葱、南瓜等集荷・加工施設（HAL集出荷施設）	恵庭市戸磯192
14:30	-	15:00 (00:30)	バス移動 恵庭市→	
15:00	-	15:40 (00:40)	⑤野菜、加工施設（余湖農園）	恵庭市穂栄323
15:40	-	16:20 (00:40)	バス移動 恵庭市→新千歳空港	